

令和5年度版『ひろがる言葉 小学国語 一上』年間指導計画・評価計画

船二小 2023年2月

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。
 △知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

〔第1学年及び第2学年〕目標（「学びに向かう力、人間性等」の単元目標）

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	3	なかよしの き	<p>□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	1	1. 挿絵をもとに話を想像し、気づいたことを話し合う。 *季節はいつか。 *登場人物は、 *どんなお話か。	○国語学習のスタートにあたり、言葉の楽しさを味わい、国語への期待を高めるような展開を心がける。学習ルールも大事だが、はじめは、どんなことを言っても温かく受け入れる雰囲気を作ることが大切である。 ○あらずじは自由に発言させながら教師がまとめていく。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）		
4	2 (話す聞く2)	たのしい いちにち	<p>◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア</p> <p>☆道徳：B 礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。</p>	1	1. 挿絵では、みんなが笑顔である事に着目し、楽しい一日を送るのに大切なことを考える。 (1) 朝の登校の絵から挨拶の様子を話し合う。 *誰と挨拶しているか。 *何を言っているか。 (2) 自分の挨拶はどうか、振り返る。 (3) 挨拶の練習をする。	○楽しい一日のためには、心をこめた挨拶や言葉かけが大切であることに気づかせる。 ○「おはようございます」の挨拶だけでなく、相手を思いやる言葉も大切であることを知る。例えば「今日もがんばってね」「きのうはありがとう」など。 ○「挨拶名人」の観点を話し合っ決めて、教室に掲示しておくことよい。 (観点の例) 相手に聞こえる声で はっきり 相手の目を見て 笑顔で 自分からすすんで など ○教師対児童、児童どうしで、挨拶の練習をする。地域のかた、校長先生、担任の先生、主事さん、知らない先生など、役割を決めて挨拶する。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。		
				2	2. 挿絵をもとに、学校生活のさまざまな場面での挨拶や言葉のかけ方を練習する。 *朝、教室に入るとき。 *教室で教師に「はい」と返事をするとき。 *来校者を迎えるとき。 *職員室に入るとき。 *給食を食べるとき。 *お礼を言うとき。 *謝るとき。 *さよならするとき。	○隣の席の人と組みになり、役割を決めて挨拶の練習をする。 ○言葉だけでなく、身ぶりや表情も交えながら、はっきりと話させる。姿勢や口形にも留意させたい。 ○組みになり、双方が言葉をかけ合うことが大切である。 (例) A「ぶつけてごめんさい」 B「だいじょうぶだよ」 など ○みんなの前で行ったり、友達との挨拶を聞いたりして、よい挨拶の仕方を理解する。 ○今後も、相手や場をを考えて、すすんで適切な挨拶をすることを確認する。			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
4	1 (話す聞く 1)	こえを あわせて あいう えお	◇姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してははっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒◎思判表A(2)ア	1	1. 「こえを あわせて あいうえお」を、教師のあとについて音読する。 2. 「こえを あわせて あいうえお」を音読し、リズムの心地よさや、全員で声を合わせる楽しさを味わう。	○何度も読み、声の速さや、はっきりした発音などに慣れさせる。 ○リズムの心地よさや、全員で声を合わせる楽しさを味わい、覚えるくらい読みこむと、姿勢や口形に気をつける余裕が出てくる。 ○単に大声を出すのではなく、声をそろえるように指導したい。全員で読む、一人で読む、交代で読むなど、読み方に変化をつける。 ○友達の読みを聞くことも大事にしたい。	【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。		
5	1	あいうえお	△母音や簡単な平仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、音節と文字の関係に気づき、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	1	1. 挿絵を参考にしながら、「あいうえお」で始まる言葉を見つけ、声に出して読む。 2. 姿勢・鉛筆の持ち方に気をつけて、平仮名を丁寧に書く。	○二音または三音で構成されている言葉を、それぞれの読む。手拍子を打ちながら読むと、音節が意識できる。 ○筆順に気をつけて、ゆっくりと書くようにする。書く前に、鉛筆を持って空に書くようにし、筆順を確認する。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	3 (話す聞く3)	みつめて はなそう、たのしく きこう	<p>◇挿絵をもとに話題を見つけて話し合い、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり応答したりする。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ ◎知技(1)ア</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒ 思判表A(1)ア</p> <p>◇互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒ ◎思判表A(1)オ</p> <p>◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒ 思判表A(2)イ</p>	1 2 3	<p>1. 挿絵を見て、誰がいるか、どんなことをしているかなどを話し合う。</p> <p>2. 挿絵から話題を見つけ、二人で組みになって話したり、話を聞いて尋ねたりする。</p> <p>3. 前時と二人の組み合わせを変えて、いろいろな話題で話し合う。</p>	<p>○挿絵を見て気づいたことを自由に発表しながら、興味を高めていく。 *誰がいるか *どんな遊びをしているか *どんな生き物がいるか など</p> <p>○細かい部分にも目を向けさせたい。挿絵の中の話題だけでなく、自分が好きなことや今後やってみたいことなど、挿絵から離れた発展した話題が出るとよい。</p> <p>○挿絵のように、相手の言葉を受けて答える双方向の会話になるよう留意する。</p>	<p>◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ）</p> <p>【態度】積極的に互いの話に関心を持ち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。</p>		
	2 (書く1)	かき、かぎ	<p>△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく文を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒ ◎知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒ 知技(1)カ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒ 思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ</p>	4 5	<p>4. 挿絵と言葉を対応させながら、清音・濁音・半濁音の言葉を声に出して読む。 (1) 書き順に気をつけながら新出文字を書く。 (2) 濁点の書き方を理解する。</p> <p>5. 主語・述語に気をつけて、文を書き、文の終わりに句点（。）をつける。 (1) P27の「やぎがいる。」をなぞる。 (2) 主語と述語を考えて簡単な文を作る。</p>	<p>○教科書にある清音・濁音・半濁音の言葉を読み、書き方に気をつけて書く。P27の濁音の混じった言葉遊びの詩をリズムよく音読する。</p> <p>○提示された文を声に出して読み、ノートに書く。P24・25の「みつめて はなそう、たのしく きこう」の挿絵を参考にしながら、主語と述語の簡単な文を考えて、発表する。 ○練習の活動として、主語を決めて述語にあたる部分に言葉を入れさせ、慣れてきたら述語にあたる言葉を決め、主語を考えさせるようにして、主語と述語の照応を意識づける活動を取り入れてもよい。また、文末を現在進行形や過去形で表現しても、ここではこだわらない。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>【態度】積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。</p>		丸（。）／文
	2	ことばを あつめよう	<p>△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、言葉を考えて読んだり、書いたりする。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒ 知技(1)ウ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒ ◎知技(1)オ</p>	6・7	<p>6. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読む。 ・書き順に気をつけながら新出文字を練習する。</p> <p>7. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。</p>	<p>○P28・29の新たに提出された平仮名を、挿絵と対応させながら声に出して読み、書く。</p> <p>○新たに提出された11文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書く。 ○「そ」「ぬ」「み」は折れや曲がりに気をつける。「ぬ」「み」は書きだす位置に気をつけると形が整いやすい。</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>		言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	3	くまさんと ありさんのごあいさつ	<p>□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	1	1. 短いお話の概要をつかんで、楽しく音読する。 (1) 挿絵を参考にしながら、誰が出てくるか、どんな様子かの大体をつかむ。	<p>○挿絵を見て、お話に興味をもたせる。</p> <p>○挿絵絵や、挨拶の文字の大きさの違いから、大きな「くまさん」と小さい「ありさん」の対比に気づかせる。</p> <p>○教師の範読を聞きながら、指で文字を追って読ませる。教師は範読しながら机間を回り、教師の読む速さについてきているか、確かめながら読むようにする。</p> <p>○音読するとき、読点「、」や句点「。」はくぎること、特に句点は間をあけることなどに気をつけさせる。</p> <p>○促音「っ」に気を付けて、リズムよく読めるように、「せおって」や「しっかり」などを取り上げて、何回か練習するとよい。</p>	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）		
				2	2. 登場人物の様子を想像しながら、工夫して音読する。 (1) どんな「くまさん」と「ありさん」か、想像したことを発表する。	<p>○どんな「くまさん」か考える。 *体が大きく、声も大きい *優しい（そっとすれちがうから） *のっそりした感じがする など</p> <p>○どんな「ありさん」か考える。 *体が小さく、声も小さい *働き者（大きな荷物を背負っているから） *しっかりしている など</p>			
				3	3. 音読を発表したり、友達の音読を聞いたりして、音読を楽しむ。 (1) さまざまな形態で音読を楽しむ。	<p>○「くまさん」らしさ、「ありさん」らしさを考えながら音読する。文字の大きさの違いにも着目して読むように助言する。 *「くまさん」はゆっくり、低い声で *「ありさん」は早口で、高い声で *地の文は普通の声で など</p> <p>○音読を楽しむために、さまざまな形態で読む。 *斉読する *教師と児童とで交代で読む *3人グループで役割分担して読む（「くまさん」・「ありさん」・ナレーター）</p>			
				4	4. 挿絵を見ながら、促音のついた言葉とつかない言葉を、読んだり書いたりする。 (1) 手拍子を打ちながら、音節を意識して音読する。 (2) 促音の表記の仕方を知り、ノートやワークシートに書く。	<p>○提示された言葉のほかに、促音のついた言葉を集めたり、教科書にある促音を使った短い詩を、リズムよく読んだりする。</p> <p>○促音「っ」の書き方をおさえる。 *ます目の中の書く位置 *大きさ</p> <p>○促音の「っ」は、それ自体は発音しないが、言葉の中では一拍（一音）として数える。拍としてきちんと教えられれば、表記の抜けが起らないので、手で拍子をとりながら読むなどして、拍を意識づけたい。 *きって せっけん など</p> <p>.....</p>	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）		
	2 (書く1)	ねこ、ねっこ	<p>△促音の読み方と書き方、句読点の使い方を理解する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	5	5. 助詞「は」の使い方、読点（、）や句点（。）の打ち方に気を付けて文を視写する。挿絵を参考に、簡単な敬体の文を考える。 ・考えた文「……は、……ました。」をノートに書く。	<p>○言葉につく助詞の「は」は、「ワ」と読み、言葉と言葉をつなぐはたらきをしていることをおさえたい。助詞の「は」は文節のくぎりははっきりさせている。このあとの教材でも助詞の「は」について復習する機会があるので、ここでは言葉をつなぐはたらきを意識づけるにとどめてもよい。</p> <p>○主語と述語で構成された簡単な敬体の文を考え、句読点を正しく入れて文を書く。教師がゆっくり板書し、それを見てノートに書かせる。</p> <p>○敬体は初出のため、板書で視覚にも訴え、使い方に慣れるようにする。</p>	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）		
							◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）		
							◎【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	3	ほんを よもう	<p>△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や教師に話したりして、読書に親しむ。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	1 2・3	<p>1. 教科書で紹介されている絵本の表紙や題名を参考に読みたい本を選び、読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりする。</p> <p>2. いろいろな本を読み、おもしろかったところを友達と伝え合う。</p>	<p>○ふだんから読み聞かせをし、絵本への興味を高めておく。教室に絵本を置き、いつでも手に取れる読書環境を整えておくことも大切である。 ○教科書で紹介されている絵本は、できるだけ現物を用意し、読み聞かせをしたり、紹介したりする。</p> <p>○学校図書館の絵本コーナーに行き、活動するとよい。 ○本を選べない児童には、個別に声を掛け、教師と一緒に読んだり、興味を持ちそうな本を薦めたりする。 ○気に入ったページを見せながら、おもしろいところを伝えるようにさせると、交流が具体的になる。 ○児童のおすすめの絵本は、児童の名前を付けて教室に展示すると、いろいろな本を読んでもみようという意欲が高まる。</p>	<p>◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ）</p> <p>【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。</p>		
	2 (書<1)	ことばを つなごう	<p>△意味による語句のまとまりを考えて、つながる言葉を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	4・5	<p>4. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読み、空欄にどんな文字が入れば言葉がつながるかを考える。</p> <p>5. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 (1) 新出平仮名の練習をする。 (2) 「を」の読み方や使い方を知り、「……を……」の文を考えて書く。</p>	<p>○新たに提出された平仮名10文字を、挿絵と対応させながら意味を考えて声に出して読む。空欄には、どんな文字が入ればよいか、考えて発表する。</p> <p>○新たに提出された10文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書く。 ○花の名前や野菜の名前、虫の名前など、教科書の中から仲間の言葉を取り出させ、知っている言葉を加えていくようにするなど、語彙の拡充と合わせて扱ってもよい。 ○「を」は「オ」と読み、助詞以外で使われることはないが、必ず言葉について言葉どうしをつなぐ役割があることをおさえたい。なお、助詞のはたらきについては、このあとの教材でも扱う機会があるので、少しずつ使い方に慣れさせていけばよい。</p>	<p>◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。</p>		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉のまとまりや意味を考えたり、リズムをつかんだりして、『あいうえおの うた』を楽しく音読する。 2. 一人で読む、斉読する、交代で読むなど、さまざまな形態で音読を楽しむ。 3. 『あいうえおの うた』を視写する。	○範読で、心地よいリズムやアクセント、イントネーションなどを身につけさせる。 ○声をそろえる、あ行、か行と列ごとに交代して読む、教師と交互に読み合うなど、読み方に変化をつけると、繰り返し音読を楽しめる。 ○視写をとおして、平仮名の五十音を正しく書くようにする。 ○全文を視写するのは負担が大きいため、詩の一部を視写するワークシートを準備するなど、実態に合わせて取り組ませる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。		
	1	ごじゅうおん	△五十音表を見て、平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	2	4. 五十音表を見て、平仮名を縦に音読したり、横に音読したりする。 5. 書きにくい平仮名や、まちがえやすい平仮名を取り上げて練習する。	○写真の口形を参考にはっきりとした発音、口形、姿勢で読む。縦に読んだり、横に読んだりして、気づいたことを発表する。 ○濁音・半濁音の列も、声に出して読む。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。		五十音

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
5～6	5	けむりの きしゃ	<p>□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	1	1. 挿絵を見ながら全文を読み、感想を話し合う。	<p>○全文を読む前に四つの場面の挿絵を見て、概要をつかむ。</p> <p>○挿絵を見ながら全文を読み、感想を発表する。</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。</p>		
	2	のばす おん	<p>△長音の読み方と書き方を理解する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p>	6	6. 長音の読み方や書き方を理解し、長音の入ったいろいろな言葉を、読んだり書いたりする。	<p>○エ列長音の「とけい」やオ列長音の「おとうさん」のように、表記と読み方が違う言葉がある。何度も読みながら慣れるようにする。特にエ列長音は、「え」で表記するのは「おねえさん」「ええ（応答）」のみで、「い」と表記する特例のほうが多い。児童に慣れさせるためにも、言葉が出てきたときに、そのつど注意を喚起させたい。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>		伸ばす音
				7	7. P51の長音の入った詩をリズムよく読んだり、視写したり聴写したりする。	<p>○促音と同様、長音も一拍（一拍）を数えることを意識づけたい。言葉を読むときには、手で拍子を取るなど工夫することが大切である。</p> <p>*おじいさん おじさん</p> <p>○教科書に提示されたほかにも、長音の入った言葉を用意し、示す。</p>			
6	2 (書く2)	せんせい、あのね	<p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。</p> <p>☆道徳：友達が書いたものよいところを見つける。</p>	1	1. 挿絵をもとに見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2) P52の文例を読み、視写する。 (3) 文例を参考に、知らせたいことで、思いついたことを発表する。	<p>○初めての文を書く学習である。一人一人と話をし、書きたいことを教師が聞き出しておく。つまずきがちな児童には、教師が聞き取ってメモを取り、それを文に書くように支援する。この段階では、一文が書けたら十分である。</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p> <p>【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。</p>		
				2	2. 伝えたいことを書く。 (1) 伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね」の書きだして書いてみる。 (2) 書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 (3) 書き終わった人どうして、交換して読む。	<p>○児童が発表した話し言葉を、そのまま文に表す。書く抵抗をなくすために大事なステップである。</p> <p>○最近のできごとの中から伝えたいことを決める。相手を意識を明確にもたせながら、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。</p> <p>○伝えたいことを全体で話し合ったり、隣どうして話し合ったりすることで意識を掘り起こし、題材を決めやすくする。</p> <p>○例文を参考に話し言葉で書き、友達と交換して読み合う。</p>			
				3	3. 「……は、……へ ……ました。」の文例を読み、ノートに視写しながら敬体の文章になれる。	<p>○児童の書く文章は、「せんせい、あのね……」の口語体のままでよい。練習として、敬体になれる程度にする。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	4 (話す聞く 4)	みんなに はなそう	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒ ◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1 2・3 4	1. 挿絵を見て、学習のねらいや方法を知る。身近なことや経験したことの中から、どんなことを話すか、話題を考える。 2. 話したいことを絵に描き、それをもとに二工程の文を作り、話の準備をする。 3. グループで発表し、感想やよいところを伝える。	○話題を決める前に、経験や身近な事を、話し合いながら十分掘り起こす。 *好きな食べ物や得意なこと *できるようになったこと *大切なもの *楽しかったこと など ○最初の一文は、「わたしは、……」「ぼくは、……」で話すようにする。 ○発表の前に、教師は一人一人の話を事前に確認する。 ○発表でつまづきがちな児童には、教師が傍らであいづちをうったり、次の言葉を促したりして、支援することも大切である。 ○話の聞き方を事前に話し合い、約束を決めておくことよい。 ○できるだけ感想を伝えるようにしたいが、心から拍手をするなど、聞く雰囲気作りも大切である。	◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。		
6	1	たのしく よもう がぎぐげごの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『がぎぐげごのうた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『がぎぐげごのうた』を視写する。	○範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ○音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ○斉読、が行、ざ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうしで読む、一人で読むなど、音読の形態を変えながら、繰り返し音読する。 ○視写をとおして、濁音・半濁音の文字を正しく書けるようにする。 ○視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写するなどの配慮をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。		
6	3 (書<3)	よく みて かこう	■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ ◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く学習に生かすことができる。	1 2 3	1. 身近で育てている植物などをよく見て、絵と文に書くことを知る。 (1) 実際に観察し、特徴や小さな変化に気づく。 (2) 全体の様子や気づいたこと、触った感じや自分の思いなどをカードに書く。 2. 絵に色を塗ったり、文を読み返してまちがいを直したりして、観察カードを完成させる。 3. お互いに書いたものを読み合う。 ・「いいな」と思ったことを書いた人に伝える。	○教師は、めいめいが観察しているところを見て回りながら、特徴や小さな変化に気づいた児童に声をかけ、褒めるようにする。 ○絵を描くことに夢中になりすぎないように、絵を簡単に描くようにし、文を書く時間を確保させるようにする。 ○書く観点やポイントを示す。3文程度を目安とする。 ・日付、曜日を書く ・自分の名前を書く ・全体の様子、よく見て気がついたこと、小さな変化や大きな変化を書く ・自分の願いや思ったことを書く ○読み合う方法は、掲示してもよいし、机の上に置いて一人一人が席を移動しながら読み合うかたちもよい。「いいな」と思ったら、付箋やシールを貼るなどして目に見える形を残すとよい。 ○まだ促音や拗音、助詞の書き方等に慣れていない児童もいる。読み返しても気づかない場合は、事前に教師が直してあげることも必要である。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。		絵日記

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6	6	すずめの ぐらし	<p>□問いの文や写真に導かれ、すずめについて説明した文章を読む。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒知技(3)エ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア</p>	1 2～4 5 6	<p>1. 題名や写真から、すずめについての興味を高めるとともに、学習への意欲をもつ。</p> <p>2. すずめについて知っていることを話し合う。 (1) 題名中の言葉「すずめ」「すずめのぐらし」をもとに話し合う。 (2) 教科書の写真を手がかりにしながら、自分がすずめについて知っていることを話し合う。</p> <p>3. 文章のまとまりごとに、写真や問いの文を手がかりにしながら、『すずめの ぐらし』を読む。 (1) 写真からわかることを話し合う。 (2) 写真からわかったことを手がかりに、問いの文「なにをしているのでしょうか。」の答えを予想する。 (3) 答えの文を読み、写真とも結びつけて、文章の中の大事な言葉に着目して、内容を確認する。</p> <p>(4) 文章を読み返して、わかったことを確認したり、はっきりした発音で音読したりする。</p> <p>4. 鳥もしくは動物について書いた絵本や図鑑を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを紹介し合う。</p>	<p>○「問い」「答え」に気をつけながら、すずめについて説明した文章を読むという学習の流れを意識づけ、意欲を高める。 ○すずめについて自由に話し合い、知っていることをたくさん出させる。</p> <p>○題名中の「ぐらし」に着目させ、話し合う。 ○教科書の写真を見て、知っていることを話し合ったり、何をしているところか予想したりする。話し合いをとおして、すずめという身近な鳥にも「知らない面」があることに気づくようにする。</p> <p>○P60, 61を読み、写真を詳しく見て、気づいたことを話し合う。(例)「どれも、草が生えているところにいる」「みんな下を向いている」など。 ○P62を読み、写真のすずめが草の種をくわえていることを確認し、前ページの写真と比べて、わかったことを話し合う。(例)「下を向いていたのは、地面をつづっていたから」「地面にある食べ物を探していた」など。 ○P63を読み、写真を詳しく見て、気づいたことを話し合う。(例)「浅い水たまりにいる」「水が飛び散っているようだ」など。 ○P64を読み、写真のすずめが翼を動かしていることを確認し、前ページの写真と比べて、わかったことを話し合う。(例)「浅い水たまりだから、水浴びしやすい」「泳いではいない」など。 ○P65を読み、写真と比べて確認したり、新たに思い出した経験を話し合ったりする。(例)「公園の木に、すずめがたくさん止まっていた」「(住宅地の)コンクリートの壁にすずめがいるのを見た」「庭の桜が咲くと、すずめが集まってくる」など。</p> <p>○文章を読む前から知っていたことと、文章を読んで初めて知ったこととを区別して、発表したり、学習の感想を書いたりする。 ○助詞の「は」「を」、拗音（「ちゃいろ」）・拗長音（「……しょう」）などに注意して音読する。</p> <p>○身近な鳥や動物を中心に、絵本・図鑑などを選ぶ。 ○自由に本を選んで読み、簡単な交流をすることでいろいろな本があることを知り、読書の楽しさを味わう。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。</p>		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
	2	しゃ、しゅ、しょ	△拗音や拗長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	7	5. 清音と拗音との違いに気をつけて、拗音や拗長音の言葉を正しく音読する。 (1) 教師の範読を聞いたあと、音読する。各自で読む、斉読する、縦や横の列ごとに読むなど、変化をつけて楽しく読むようにする。 (2) 「しゃしん」「あくしゅ」「しょつき」をノートに視写する。	○発音しながら挿絵を見て、言葉の意味を確認する。単語を音読したらP66・67の表を読む。縦に読んだり、横に読んだりして拗音の表記や読み方に慣れさせる。 ○拗音の指導は、単語の表記としては定着が難しいので、書く際には、繰り返し注意を促したい。拗音は二文字で一音節（拍）となるため、書くときに「ゃ」「ゅ」「ょ」が脱字となりやすい。手で拍子を取りながら読むなどして、音数と表記の違いに慣れさせる。 *しゃしん あくしゅ ○拗音の「ゃ」「ゅ」「ょ」を書く場所と大きさを、板書でわかりやすく示す。 ○正しく書けているか、友達と確かめ合わせるとともに、机間指導で確認する。 ○拗促音、拗長音は、促音の「っ」、長音がそれぞれ一拍（一音）なので、拗音と組み合わせると二音になる。児童にはできるだけ書いて慣れさせるようにする。 *しょつき しゅつぱつ きゅう にゅう びょういん ・ ・ ・ ・	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。		
				8	6. 拗音や拗長音を含む言葉を視写したり、言葉を集めたりする。 (例) きょうしつ おちゃ ひょうし など (1) 「びょういん」と「びょういん」の違いに気づき、正しく視写する。 (2) P67の詩を音読し、ノートに視写する。 (3) 拗音の入った言葉を集め、ノートに書く。	○「びょういん」と「びょういん」の違いに気づかせ、教科書のます目に正しい平仮名を入れさせる。 ○P67の詩を読み、拗音や拗長音を含む言葉を見つけさせる。 ○拗音を含む言葉を集めさせる。ノートに書く際は、板書で正しい表記を示すようにする。			
6	1	たのしく よもう 3 きやきゅきよの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『きやきゅきよのうた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『きやきゅきよの うた』を視写する。	○範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ○音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ○斉読、きゃ行、しゃ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうして読む、一人で読むなど、音読の形態を変えながら、繰り返し音読する。 ○視写をとおして、拗音の文字を正しく書けるようにする。 ○視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写するなどの配慮をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
6～7	12 (書く12)	しらせたい ことを かこう	<p>■身近なできごとから知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表◎B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。</p> <p>☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。</p>	1 2 3 4～8 9～11 12	<p>1. 挿絵をもとに単元の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。</p> <p>(2) P70～71を読んで、「誰に」「何を」伝えたいか考える。 (3) 思いついたことを発表する。</p> <p>2. 伝えたいことを決める。 (1) 前時で話し合ったことを参考に、何を書くか、誰に伝えるかを考える。 (2) 隣どうして、何を誰に伝えたいか話す。 (3) 全体にも紹介する。</p> <p>3. 敬体で文を書くことを知る。 (1) P71の文例を読み、「……は、……ました。」のような敬体で書くことを知る。 (2) いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。</p> <p>4. 伝えたい相手を決めて文章を書く。 (1) 伝えたい相手を考えながら二文程度の文を書く。 (2) 題名を決める。</p> <p>5. 読み返し、交流する。 (1) 書いた文を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 (2) 書き終わった人どうして読み合って、よかったところを伝える。</p> <p>6. 読んだ作品のよいところを伝え合い、自分の作品のよさに気づく。</p>	<p>○既に『せんせい、あのね』『よくみて かこう』の学習で、文を書く経験をしている。ここでは、身近なことから題材を決め、整った文を二文程度書く学習である。</p> <p>○題材を掘り起こす段階なので、自由に幾つでも発表させる。</p> <p>○最近のできごとの中から伝えたいことを決める。相手意識をもたせ、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。 ○伝えたいことを全体で話し合ったり、隣どうして話し合ったりすることで意識を掘り起こし、題材を決めやすくする。 ○ノートに題材と伝える相手を書く。(題名はまだ決めてなくてもよい。)</p> <p>○いろいろな敬体の言い方を発表し、敬体に慣れておくようにするとよい。</p> <p>○誰に何について知らせるか考え、文章を書く。 ○「は」「を」「へ」の使い方や敬体の書き方を確認する。 ○原稿用紙の基本的な書き方を指導する。</p> <p>○まちがいがいないか、自分で音読して確かめる。見直す観点を示すようにする。 (観点の例) *伝えたいことが書いてあるか *句読点は正しく書けているか *「です」「ます」が書けているかなど</p> <p>○お互いに読み合って感想を伝える。(よいところを見つけたら「シール」を貼る。)</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。</p>		
	1	は、を、へ	<p>△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆生活科：見つけたことや気づいたことを、文章に書く。</p>	13	<p>7. P72・73の提示文を読んで、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を確かにする。 (1) 「は」「を」「へ」の例示された文を音読し、ノートに視写する。 (2) P72のありさんの詩を音読し、「は」「を」「へ」の読み方を確かにする。</p> <p>8. 助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る。 (1) 全体で話し合って例をあげ、書き方を確認する。 (2) 各自、ノートに文を書く。</p>	<p>○助詞の「は」「を」「へ」については、P35、P39、P53で扱ってきている。最後のまとめの学習として位置づけている。 ○「ワ」「オ」「エ」と読む文字を例文から見つけさせ、助詞については色つきの文字や色紙で区別して示すようにする。 ○視写した語や文を音読して、正しく書けているかを確かめるようにさせる。</p> <p>○助詞「は」「を」「へ」は、身につくまで機会を見て繰り返し指導することが大切である。 ○挿絵をもとに考えさせる。各自で文を作る前に教師は児童の意見を吸い上げて、1、2例板書する。</p>	<p>◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p> <p>【態度】積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。</p>		文

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	2	としょかんへ いこう	△図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 図書館のはたらきや利用の仕方について知る。 (1) 図書館の利用経験を発表する。 (2) 実際に学校図書館へ行って本を読んだり、借りたりする。 2. 読んだ本の中から気に入った本を一冊選び、紹介し合う。	○地域の図書館や学校図書館に行った経験を話し合い、図書館への興味を高める。 ○図書館での約束や貸し出しのルールを知らせる。 ○図書館で本を借りることを習慣づけたい。 ○本を選べない児童には、興味のわきそうな本を教師が薦めるようにする。 ○本を一冊読み聞かせ、出てきた人物や本の題名、心に残った場面やできごとを話し合う。 ○紹介は、いちばん知らせたいページを見せながら題名や人物の名前、心に残ったところなどを話したり、好きな部分を読んだりするようにさせる。 ○全体の場でも数名に話をさせ、更に読みたい本を見つけられるようにする。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。		
7	2	おはなしの くに	△挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 挿絵からお話の世界にいざなう。 (1) P75～78を開き、なんの絵が描かれているのか話し合い、お話の世界であることを知る。 (2) 挿絵を見ながら知っているお話について話し合い、読書への興味を高める。 2. 好きなお話を選んで読む。 (1) 学校図書館に行って絵本を選び、読書する。 (2) 多くの絵本を読み、その中からお気に入りの一冊を選ぶ。 3. お話の読み聞かせを聞く。	○挿絵が昔話や童話の絵であることに気づかせる。 ○知っているお話の題名やあらすじなどを発表させながら、読書傾向をつかんでおく。 ○挿絵から読んでみたいお話を選ばせる。 ○P75・76は日本の昔話、P77・78は外国のお話になっていることにふれる。 ○たくさんの昔話を読み聞かせし、昔話の面白さ、独特の語り口調や言い回しに気づかせたい。ストーリーテリングをするのも効果的である。 ○学校図書館で昔話が置いてある書架を知らせ、たくさんの昔話があることに気づかせ、もっと昔話を読みたいという意欲を高める。 ○気に入ったお話を紹介し合い、更に読書意欲を高める。 ○昔話は語り継がれてきたものであるもので、細部が異なるものもあることを伝える。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を読もうとしている。		お話
7	6	おおきな かぶ	□繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 △話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：友達と協力して音読したり、話し合ったりする。	1 2～5 6	1. 物語を概観し、学習の見通しをもつ。 * 外国のお話 * 大きなかぶが出てくる * みんなで引き抜こうとしている (1) 題名や挿絵から物語の内容を想像し、興味をもつ。 (2) 教師の範読を聞きながら、本文を読む。 (3) 何が印象に残ったか、簡単な感想をもつ。 2. それぞれの場面を読んで、人物の行動を中心に想像を広げ、お話の展開を楽しむ。 * おじいさんのかぶに対する願い * かぶを引っ張る強さ * どんな言葉で助けを呼んだか * 抜けなかった時に、登場人物がそれぞれなんと言ったか 3. 最後の場面をもとに、物語全体について感想をもつ。	○音読が効果的な教材である。児童には、リズムよく音読しながら『おおきな かぶ』のお話の世界を十分に味わせたい。 ○かぶの大きさを思いうかべさせる。 ○挿絵を拡大して別に用意しておくこと、このあとの学習で人物の行動や出てくる順番を話し合うのによい。 ○教師の範読を大切に、児童の音読につなげていきたい。 ○叙述の特徴や繰り返しの表現に注意することにより、かぶを引っ張る力がだんだん大きくなっていくことをつかませる。 ○登場人物がかぶを引っ張る様子や、抜けぬ時にどんなことを話し合ったか想像し、簡単に劇化すると、より楽しい活動になる。 ○「それでも」「まだ まだ」「まだ まだ、まだまだ」などの言葉に着目させる。 ○「やっど、かぶは ぬけました」の時の登場人物の様子を想像する。 ○物語全体を通して、心に残ったことやおもしろかったことを感想に書く。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。		訳

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
7	4 (書く4)	えにつき	<p>■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表◎B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p> <p>☆生活科・特別活動：日常生活の中から、楽しかったことやおもしろかったことを見つける。 ☆道徳：書くことをとおして自分の日常生活を振り返る。</p>	1 2・3 4	<p>1. 学習のねらいと流れをつかむ。 (1) 挿絵を参考にしながら書くことを考え、隣どうしで話し合う。 * 日曜日にしたこと * 楽しかったこと * がんばったこと など (2) 話したことをもとに、文章にすることを全体で確かめる。</p> <p>2. 自分の書きたいことを選び、絵日記に書く。 (1) したことのほかにも、思ったことも入れるとよいことを知る。 (2) 前時で話し合ったことを思い出し、題材を決めて絵と文章を書く。</p> <p>3. 書いた絵日記を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>○できごとを思い出しやすいように、隣どうしで話しして、書くことを考えるようにする。 ○書くことが焦点化できた組みを指名し、どんなことが話題になったか発表させる。板書を整理しながら、話し合った話題が書くことにつながることを示す。 ○教科書の絵日記を見て、どのようなものを書くのかイメージをもつ。</p> <p>○児童が体験したことの中から、絵日記にして友達に伝えたい事柄を選ぶようにさせる。</p> <p>○グループ内で交換して読ませ、互いに読み合った足跡が見えるようにする。 * 付箋によいところを書いて知らせる * 「いいねシール」を貼る など ○読み合ったあとは、クラス全員が読めるように、教室に掲示するなどの工夫をする。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p> <p>【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書こうとしている。</p>		絵日記／思い出す

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	5 (話す聞く 5)	なつのおもいでを はなそう	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分から話すて話したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆生活科：身近な自然や生活経験に興味をもつ。 ☆道徳：自分の生活について話したり、友達的生活について聞いたりして、自分について振り返る。	1 2・3 4・5	1. P94・95の挿絵をもとに、学習の見通しをもつ。 (1) 主な学習のねらいを知る。 *夏休みのできごとを話題にすること *実物を持ってきたり、絵や写真を持って話すこと *グループで話し合い、聞く人も質問や感想を言うこと (2) 挿絵はどんなことを表しているのか話し合う。 (3) 自分たちの夏休みのできごとを発表し合う。 2. 発表の準備をする。 (1) P95の挿絵をもとに、どんな発表をするのか話し合う。 (2) 発表原稿を書く。 (3) 発表に必要なものを用意する。 *思い出の品 *写真、絵 など (4) 発表の練習をする。 3. 「夏の思い出発表会」をする。 (1) 話すとき、聞くときのきまりを確認する。 (2) グループ全員が話したら、他のグループと入れ替わって、話をする。 (3) 質問や感想を言う。	○1学期（前期）の学習の、P54『みんなに はなそう』で行った、身近なできごとを話題にしたグループでの発表を想起させる。 ○P94の挿絵を見て、それぞれどんなできごとなのか話し合う。 ○自分の夏休みのできごとを自由に発表する。全体で何人かが発表したら、隣どうしで自分の話をしたり、相手の話を聞いたりする。 ○P95の発表例や質問・感想を読んで、具体的なイメージをもたせる。 ○三文程度の発表原稿を書く。発表原稿は話の内容をまとめるためのもので発表の時は見ないようにさせる。 ○発表原稿が書けたら、読み返して完成させる。完成したら発表の練習をして、友達や教師に聞いてもらうようにする。 ○話すときの約束、聞くときの約束を確認する。 ○質問や感想を考えながら話を聞くことや、最後まで聞くことを指導する。 ○家庭に協力を頼んで、思い出の品や写真を用意してもらう。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ） 【態度】積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。		
2		かたかなのことば	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆生活科：身のまわりの自然や食べ物、道具に興味をもつ。	6 7	4. 片仮名で書く言葉を見つけ、簡単な片仮名を読んだり書いたりする。 (1) P96の挿絵から片仮名で書く言葉を見つけて発表する。 (2) P96下段の例示を読み、書き順や形に気をつけてなぞったり、ノートに練習したりする。 5. 片仮名の文字や言葉を読んだり、書いたりして、練習する。 ○P97に示された語句を、声に出して読んだりなぞったりする。 ○ノートに、書き順や形に気をつけて練習する。	○挿絵から探した片仮名の言葉を発表させる。 ○P96のます目を書いてある片仮名を読み、片仮名の言葉と絵を対応させる。 ○新出片仮名の書き順や、形の特徴などを理解させ、丁寧にノートに書かせる。 ○p97の提示されている言葉を音読し、平仮名と片仮名の長音・促音・拗音の表記の違いに気づかせる。 ○筆順を示す数字や点画の方向を示す矢印に注意して練習させる。	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。		片仮名／言葉

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	6	けんかした 山	<p>□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：けんかした経験を出し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりして、相手の気持ちになる。</p>	1	1. 題名や挿絵をもとに、学習のねらいをつかむ。 (1) 山の様子や言葉から、場面を想像して、お話を楽しむ。 (2) 挿絵を見ながら教師の範読を聞き、あらすじをつかんだり、簡単な感想をもったりする。	<p>○題名や挿絵をもとに物語の大体の流れをつかみ、読みのめあてをもたせる。</p> <p>○教師の範読を大切にす。特に一年生は耳から聞くことで、音読が上達する。</p> <p>○初めに簡単な感想をもたせることで読みの実態が把握でき、次の展開に生かせる。</p> <p>○新出漢字の読み方や筆順をおさえておく。</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）</p> <p>【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見直しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。</p>		文／漢字
	2	(みんなであのしくよみましょう。)	<p>□役割を決めてグループで音読する。</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	7	4. 音読発表会の準備をする。 (1) どんな会にするか、誰を招待するか話し合う。 (2) 登場人物を確認し、グループで役割を決めて音読の練習をする。	<p>○児童それぞれが、「聞いている人が楽しくなるように読む」などのめあてを決め、意欲を高める。</p> <p>○保護者や地域のかたを招待するなど、教師は前もって準備を進めておく。</p> <p>○今までの学習が生きる音読になるように、教師もグループを回って助言したり、上手なところを褒めたりする。</p>	<p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）</p> <p>【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見直しをもって役割を決めて音読しようとしている。</p>		
	3	かん字のはじまり	<p>△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p>	9	6. 漢字の成り立ちに関心をもち、「山」「月」「木」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。	<p>○『けんかした 山』の「山」「日」「月」「木」の読み方を確認する。</p> <p>○それぞれの漢字を絵、絵文字、文字と結びつけさせ、絵からできた漢字であることを理解させる。</p> <p>○P105の文章を読み、「山」「月」「木」の書き方を練習させる。</p>	<p>◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）</p> <p>【態度】進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって読んだり書いたりしようとしている。</p>		漢字
				10	7. 「上」「下」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。	<p>○「上」と「下」の絵文字を比べ、違いについて話し合わせる。</p> <p>○「上」と「下」の書き順を練習し、正しく書いたり、漢字を使った文を書かせたりする。</p> <p>○「上」「下」はしるしからできた漢字（指事文字）であることを理解させる。</p>			
				11	8. P107の上段に示された漢字が、どの絵と対応するか確かめ、漢字の由来を理解する。	<p>○六つの漢字の書き順を確認し、ノートなどに正しく書かせる。</p> <p>○絵文字を見て、それぞれどのようにしてできた漢字か、言葉で説明させる。</p> <p>○新出漢字を使ってできる文や文章を、読ませたり書かせたりする。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9	7	だれが、食べたのでしょうか	<p>□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、 「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	1 2~4 5 6・7	<p>1. 題名を読んで、「誰が」「何を」食べたのかを考えるなどして、学習への意欲をもつ。</p> <p>2. 題名と9枚の写真を手がかりに、この文章が説明していることの大体をつかむ。</p> <p>3. 問いと答えの文や写真との対応に気をつけながら、食べ跡と食べた動物やその食べ方を読む。</p> <p>4. 写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしについて話し合う。</p> <p>5. 動物について知っていることや絵本・図鑑などで調べたことを、問いと答えからなる簡単な文章で書き、紹介し合う。</p>	<p>○「誰が」「何を」食べたのかに着目させながら、問いと答えの文や写真との対応に注意して読むよう意識づけ、意欲を高める。</p> <p>○題名から、「誰が」を明らかにすることが、この文章の中心であることに気づかせる。</p> <p>○9枚の写真が、木の葉や実と動物で構成されていることに気づかせる。</p> <p>○野山で暮らす動物の食べ跡についての興味を高め、この文章を学習していく意欲を高めたい。</p> <p>○音読をとおして、意味のまとまりを理解させるようにしたい。</p> <p>○P108～110を読み、次のことをおさえる。 *写真中の、くるみの殻と穴のあいたくるみの殻 *誰が＝ねずみが *食べ方＝殻に穴をあけて、中身を食べる（「あなの あいた もの」が落ちている訳）</p> <p>○P111・112を読み、次のことをおさえる。 *写真中の、松ぼっくりとまわりだけがかじられた松ぼっくり *誰が＝りすが *食べ方＝まわりだけを食べて、芯を残す（「まわりだけが、かじられた もの」が落ちているわけ）</p> <p>○P113・114を読み、次のことをおさえる。 *写真中の、木の葉の食べられた部分 *ねずみやりすの場合から予想して、これも誰かの食べ跡だと考えられること→誰が＝むさびが *食べ方＝木の葉をかみ切って食べる。真ん中だけを食べることもある（「ちぎれた木のは」が落ちているわけ）</p> <p>○P115を読み、くるみ・松ぼっくり・木の葉の場合と比べて考え、写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしに対する興味を高めるようにする。</p> <p>○巻末付録「1ねんせいで よみたいほん ①」の中の『だれだかわかるかい？ むしのかお』『どうぶつのあしがたずかん』を用いてもよい。</p> <p>○簡単な絵も添えてカードを作り、カードの表に問い、裏に答えのように構成して、問いと答えの対応を意識させるとよい。</p>	<p>◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p> <p>◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）</p> <p>◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア）</p> <p>【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。</p>		漢字

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
9～10	13 (書く13)	たのしかったことをかこう	<p>■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。</p> <p>☆道徳：友達や自分のよいところを見つける。</p>	1	<p>1. 学習の見直しをもつ。</p> <p>(1) P116・117の挿絵や本文から、心に残ったできごとを思い出し、文章を書くことを知る。</p> <p>(2) 学校や家でのできごとで、楽しかったことやがらばったことなどを発表する。</p> <p>(3) P117の「ここが だいじ」を読んで、文を書くのに、どんなことを思い出したらよいか気づく。</p>	<p>○P116の挿絵を見て、何をしているところか話し合い、自分の経験を想起させるきっかけにする。</p> <p>○自分の楽しかったことやおもしろかったことを全体で話し合ったり、隣どうして質問し合ったりする。</p>	<p>◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p>	<p>かく ときに おもいだす こと</p>	<p>思い出す／漢字／したこと／伝える／「」／言葉</p>
				2	<p>2. 文の書き方を知る。</p> <p>(1) P117の「ここが だいじ」を確かめる。</p> <p>(2) 文を書いたら、友達と読み合うことを知る。</p>	<p>○「ここが だいじ」に示された内容を掲示し、書くときに参考になるようにしておく。</p> <p>○児童が気づいたり、見つけたりしたことを板書し、文章を書くときに生かせるようにする。</p>	<p>◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）</p>		
				3	<p>(3) P118・119の例を読み、どんな文を書くのかイメージをもつ。</p> <p>(4) 「」の使い方や題名、名前の書き方などを確認する。</p> <p>(5) 「ここが だいじ」が例示の文章にどう生かされているか、確認する。</p>	<p>○題名、名前、「」の書き方を掲示しておき、常に確かめられるようにする。</p> <p>○例示された文章を読んで、したこと、見たこと、話したことや聞いたこと、思ったことのどれかが入っていることに気づかせる。</p>	<p>◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）</p>		
				4	<p>3. 文章を書く。（話題設定・構成）</p> <p>(1) 文章に書く内容を決める。</p> <p>(2) 書く題材が決まったら、書きたいことを思い出してメモやカードなどに書く。</p>	<p>○これまでの学習を振り返って、書きたい事柄やできごとについて隣どうして紹介し合い、題材を決める。</p> <p>○書きたい事柄を、一文ずつメモやカードに書くよう指導する。</p>	<p>【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、学習の見直しをもって文章を書くようにしている。</p>		
				6～10	<p>4. 文章を書く。（記述・推敲）</p> <p>(1) メモやカードを並べて、書く順番を決める。</p> <p>(2) 原稿用紙の書き方を知る。</p> <p>* 題名</p> <p>* 名前</p> <p>* 書き始めの一字下げ</p> <p>* 会話の「」</p> <p>* 読点の打ち方 など</p> <p>(3) メモをもとに文章を書く。分量のめやすは、本文だけで100字程度。</p> <p>(4) 書いたら読み返す。まちがいがあれば直す。</p>	<p>○メモやカードを順番に並べたり、整理したり、つけたしたりして書く準備をする。</p> <p>○書き始めは、一まずあけることや、「」の書き方を、例示の文章をもとに確認する。</p> <p>○なかなか書けない児童には、個別に支援を行う。</p> <p>○書き終わったら、必ず読み返し、推敲する習慣をつけることが大切である。</p>			
				11～13	<p>5. 書いた文章を交流する。</p> <p>(1) 書いた文章を発表する。</p> <p>(2) 友達のよいところを見つけて伝え合う。</p>	<p>○よいところを見つける視点を確認する。</p> <p>○シールやひと言感想を書いた付箋を貼る。</p> <p>○友達の文章についてよいところを伝え合い、互いに自分のよさに気づくようにする。</p>			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	ここが大事	学習用語
10	2	かぞえうた	<p>△教え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>☆音楽科：手拍子などで拍子を取りながらリズムよく読む。</p>	1	1. 言葉の意味を考えながら、リズムよく音読する。	<p>○絵を指さしながら、ものと数を確かめさせる。</p> <p>○全員で、一行ずつ、交互に、グループでなどさまざまな形態で音読を楽しめるようにする。</p>	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）		
				2	2. 絵と言葉をもとに、数え方を確認する。	<p>○教科書の挿絵で絵カードを作成し、「…りん」「…かい」などの数え方を言えるようにさせる。</p> <p>○「一つ」「二つ」や「一りん」「二かい」などを横に読み、正しく覚えられるようにする。</p>	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ）		
	3	かぞえよう	<p>△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>☆算数科：正しい読み方で十までの数を数える。個数や順番を正しく数えたり表したりする。</p>	3	3. 数を表す漢字を声に出して読んだり書いたりすることを覚える。新出漢数字を書き順に気をつけて正しく書く。	<p>○漢字カードを作成し、読み方や書き順、字形がよくわかるようにしておく。</p> <p>○『かぞえうた』の読み方と、漢数字の読み方との違いを確認する。</p>	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ）		漢字
				4	4. P122・123を見て、一から十までの漢数字を声に出して読む。挿絵を見ながら、助数詞をつけて漢数字を声に出して読む。	<p>○漢数字の数え方を声に出して練習したり、数を変えたと助数詞の言い方が変わったりすることに気づかせる。</p>	【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。		
				5	5. 漢数字を使って短い文をつくり、ノートに書いて発表し合う。	<p>○漢字の書き順を空書きさせ、正しく書けているか確認する。</p> <p>○身のまわりのもので、助数詞を使った短文を作らせる。</p> <p>*おにぎりを一こ食べた。 *ひまわりの種を五つぶもらった。 *猫を三びき、犬を一びき飼っている。</p> <p>○作った短文を交換して読み合い、漢数字の読み書きや助数詞の使い分けの練習をさせる。</p>			